

平成28年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第5分科会
富士吉田市立吉田小学校
教諭 梶原 拓也

『富士山教育を通して地域に誇りを持つ子どもたちに』
～地域を学ぶ，地域で学ぶ，地域から学ぶ，そして地域へ発信する～

はじめに

富士吉田市立吉田小学校は富士吉田市の南に位置し，市内では最も富士山に近い小学校である。学区には世界遺産の構成資産があり，上吉田の御師住宅が並んでいた本町通りがある。毎年8月26日に開かれる「火祭り」では，吉田小の松明も参道を照らし，子ども神輿も出されるなど，地域とのつながりが深い学校である。また，全校児童650名の南都留地域では最も大規模の学校である。



(吉田小から見た富士山)

富士吉田市の小中学校では，「富士山教育」を学校教育の中に位置づけし，9年間を通じた富士山を中心とした富士吉田教育を進めている。吉田小の「富士山教育」の計画は「総合的な学習の時間」を多く使って学習を進めている。これまで，実践の積み重ねにより大きな成果を上げている。

しかし，吉田小での6年間を通じた教育課程の中での「富士山教育」を見直し，体系を具体的に整えること，体験学習や一斉の活動で学んだ基礎的な知識の上に，自己の課題を設定すること，誰に何のために伝えるのか目的意識をはっきりさせ，学習への満足感を与えられるような場の設定を行うことなどに課題があった。

そこで，吉田小の「富士山教育」の取り組みをさらに充実し，発展させていくために，富士山教育コーディネーターを中心に富士山教育部会等で検討を加え，「吉田小としての富士山教育」を計画，実践した。

1 富士山教育の基本方針と目的

○基本方針 「富士山教育憲章」の理念を具体的教育活動をすることによって実現する。

(1) 富士山教育を富士吉田教育ととらえる。

(2) 富士吉田市の子どもたちに富士山と地域について学ばせる。

→ 地域と学校の独自性を生かす教育を進める。

(3) 心の成長を交流活動を通して図っていく。

○目的

① 富士山学習：富士山について体系的に学ぶ機会を与える。

② 地域学習：自分たちの地域のことを知り，そこから更に多くの事を学ばせる。

③ 交流活動：地域に根ざした交流教育を通し，心を成長させる。

以上3つの領域で，富士山について学年を追って体系的に学び，地域の自然，歴史，文化等について学ぶことを学校教育の中に位置づける。

2 吉田小の授業での取り組み (H27)

学年	①富士山学習について	②地域学習について	③交流活動について
1		「もうすぐみんな2年生」 (生活科) ・ 保育園の来年度新入生を招き，ゲーム・音読発表会。	「きせつとあそぼう」(生活科) ・ 神社で保育園の児童と一緒に秋探しの活動。
2		「ぼうけんはっけん町たんけん」 (生活科) ・ 地域の様々な自然・本町通りのお店や公共施設などを見学，学習。	「ぼうけんはっけん町たんけん」 (生活科) ・ 地域の様々な自然や本町通りのお店や公共施設などを見学，交流。
3	「富士吉田の地形」(社会) ・ 校区の東西南北を歩き，方位や高低差，上吉田が富士信仰の町	「まち探検」(社会発展，総合) ・ まち探検で浅間神社・御師住宅・富士山駅・CATV	「吉田の名物を知ろう」(総合) ・ 吉田の名物(うどん・水)について調べ地域の方を講師に招

	<p>として栄えてきたことを学習。 「富士山の誕生と歴史」(総合) ・遠足と関連させ、樹海・溶岩・コウモリ穴を見学。富士山と噴火による溶岩流を知る。</p>	<p>などを見学。 「買い物調べ」(社会) ・地域の店を調べ、買い物体験をし、地域と他地域とのつながりについて学習。</p>	<p>き、吉田のうどん作りの体験。 「買い物調べ」(社会発展) ・買い物体験後、保護者や祖母を招き、ほうとう作り体験。</p>
4	<p>「富士山のゴミ問題」(総合) ・富士山のゴミ問題について富士山レンジャーの方を招いての学習。</p>	<p>「新倉掘り抜き」の学習(社会) ・溶岩台地の富士吉田が水を得るために、先人がどのように苦労してきたかということ、新倉掘り抜きをもとに学習。</p>	<p>「点字体験・福祉講話」(総合) ・視覚・聴覚障害の方や肢体不自由の方との交流。点字サークルしらかばによる点字指導を通して、障害を抱えた方々への理解を深める。</p>
5	<p>「富士山と雲~天気の変化~」(理科) ・富士山に出た雲でどんな天気になるか予想し、富士山にできる雲と天気の変化について学習。 「富士の麓の赤松林」 「富士山周辺の動植物」 「富士山の地形」(総合・理科) ・林間学校と関連し、実際に見聞することで、事前学習をした。 ・富士吉田の大地は火山のはたらきだけでなく、流れる水のはたらきの影響を受けていることも学習。</p>	<p>「富士山を知ろう」(総合) ・書物や人やインターネットなどを利用して調べ活動。林間学校での富士山散策を通し植物・動物・鳥・溶岩など様々な自然の姿を学習。 「米作り」(総合) ・地域のボランティアの方と田植え・稲刈りなどの米作り体験。 ・食料を生産する喜びや工夫、苦労を知り、稲作文化の良さを学習しての発表会。</p>	<p>「米作りから学ぼう」(総合) ・地域ボランティアの方々と交流。学校に招待して米作りで体験したことを劇にして見ていただいたり、収穫した米でつくったおにぎりを食べていただいたりして交流。</p>
6	<p>「上吉田の歴史を探ろう」(総合) ・図書館やインターネット、ふじさんミュージアム等を利用。富士山や火祭りの調べ活動。 ・三合目から佐藤小屋(五合目)までのコースで富士登山遠足を行い、富士登山の歴史を学習。 「大地のつくりと変化」(理科) ・水の働きでできた大地と火山や地震の働きでできた大地について学習。 ・火山や地震災害についての知識と対策を学習。</p>	<p>「上吉田の歴史をさぐる」(総合) ・上吉田の歴史や文化についての学習。 ・学校周辺の散策をし、富士信仰、御師の家、町の作りなど、様々な課題を解決していきながらの学習。</p>	<p>「上吉田の歴史を探る」(総合) ・上吉田の歴史を読み物資料としてインターネットで調べたり、地域の方々に聞いたりしながらの調べ活動。</p>
全			<p>「吉小祭り」(児活) ・祖父母を学校に招いてお店を開き交流。</p>

3 平成28年度の重点的な取り組み

テーマ

本校独自の富士山教育の確立と地域への取り組み内容の発信を通して、富士山に親しみ情操豊かな子どもを育てる。

◎取り組みの柱

①【富士山教育の確立】

「富士山クイズウォークラリー」

- ・富士山教育の日への関心づけとして実施。
- ・校内にクイズを10問配置し、自由参加でクイズウォークラリーを実施。

①「富士吉田の名物といえば、白くて細長いあれですよ！
吉田の名物からうまれたゆるキャラはどれでしょう？」



②「本町通りに多く立ちならが御師の家。入り口は細い道になっています。この道の名前は？」

- ①タヤマチ
- ②ホノミチ
- ③イリミチ
- ④ヘビミチ



③「小佐野の藩の〜」と校歌を歌いますね。さて、「小佐野」とはどのあたりのことでしょう？」



(校内掲示用クイズ)



その他の問題

富士山の高さは何m？／これほどどこから見た富士山？／真冬に見られるのは赤富士と紅富士？／最後に富士山が噴火したのは？／溶岩が流れてできた土地のことを？／富士に現れる農業をはじめめる合図の生き物は？／この富士山の季節は？

(取り組みカードと賞状)

「吉小 富士山教育の日」

・目的

◎富士山教育の目的を知り、一年間の見通しや富士山教育に対する興味関心を高める。
 ※吉田小富士山教育とは富士吉田の中で富士山に一番近い学校であり、富士山は吉小の子どもたちにとって生活の一部である。そんな富士山の様々な面について小学校生活を通して知っていく。

・日時

6月27日（世界遺産登録の日の前後で実施）
 8：25～9：05（朝の全校集会から1校時始めにかけて）

内容



1年間の活動を振り返るスライド



博物館学芸員による講話（先達の衣装）



学校長の話



キャラクター

「ワークシートの収集・整理・作成，実践の集積」

・学年ごとに各施設で作成されているワークシートの収集・整理またはワークシートの作成を行う。

3年：富士山レーダードーム，ふじさんミュージアム，御師住宅，青木ヶ原樹海

4年：富士山レンジャー，新倉掘り抜き

5年：河口湖フィールドセンター，山梨県富士山科学研究所，生物多様性センター，青木ヶ原樹海

6年：ふじさんミュージアム，馬返し，富士登山遠足

「富士山教育検定」

・各学年の学習内容をもとに検定問題の作成

・知識面においての成果の検証を行う

・成果の検証も兼ねて検定問題の内容を3項目で作成。

①体験学習をもとにした問題 ②調べ学習をもとにした問題 ③講演に関わる問題

・郷土愛や富士山教育への興味関心が向上し、児童が達成感を味わえるよう、検定の形式を統一して作成をする。

・検定は年1回2月23日「ふじさんの日」に一斉実施（3～6年生）

② 【活動内容発信による地域への周知】

「富士山教育」の成果の発信

- ・2学期の土曜参観で富士山教育の授業様子や成果物展示を行う。(10月15日)
- ・広報活動(新聞/CATV/市広報/お便り)



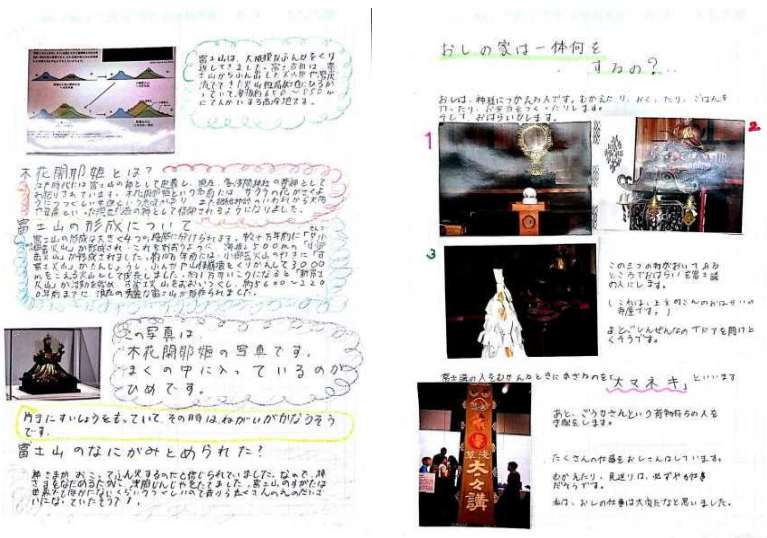
(CATVの取材)

(山梨日日新聞)



(保護者向けお便り)

・ふじさんミュージアムでの富士山学習会作品展示



・校内掲示の充実



富士山三十六景



富士山教育掲示板

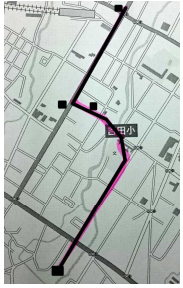
③ 【その他活動】

「吉小 夏休み富士山学習会」の開講


・目的

- ◎博学連携を図り、体験や見学を中心とした実感を伴った学習により、富士山教育の目的を達成する。
- ◎郷土学習を通し、地域について知ることによって郷土への誇りを持たせ、その良さを発信できるようにする。

- ・日時
8月2日(火)～3日(水)
- ・6年生の希望者を興味関心に従い、歴史コースと自然コースに分けフィールドワーク。
- ・1日目…午前：フィールドワーク、午後：博物館及びバックヤード見学
- ・2日目…終日：博物館付近の露頭見学。前日の見学内容、博物館を利用したまとめ学習。
(歴史コース) …博物館学芸員 篠原武先生、職員3名

時間	内容	教材
9:30	ふじさんミュージアムからタクシー移動【金鳥居へ】	 絵図 地図 昔の写真
9:50	石碑「左ハ甲州…」／金鳥居(見学)	
10:00	浅間坊門(解説)	
10:20	本町通り(歩きながら解説)	
11:00	上文司さん(見学)	
11:10	弥勒堂(見学)	
11:40	吉田小(トイレ休憩)	
12:15	浅間神社(見学・解説)	
12:30	タクシー移動	
12:30	ふじさんミュージアム	

(自然コース) …早見正一先生、職員4名

時間	内容	教材
9:40	ふじさんミュージアムからタクシー移動【小室浅間へ】	 溶岩流の地図 地形図 昔の写真
9:50	下浅間 丸尾(見学)	
10:30	おひめ坂→市民会館	
11:00	市民会館→石切場	
11:20	吉田胎内へタクシー移動	
11:20	吉田胎内(見学・解説)	
12:15	タクシー移動	
12:30	ふじさんミュージアム	

- ・成果物については、博物館に掲示する。



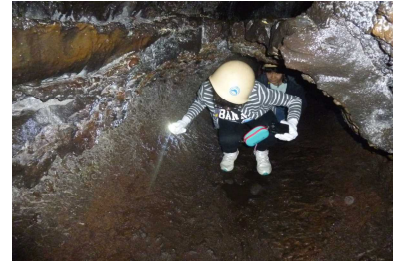
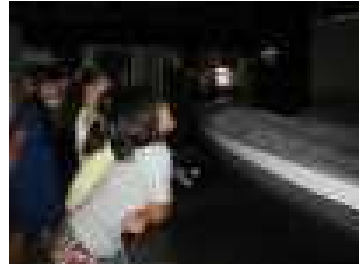
現在でも富士講の方を泊めている御師住宅

下吉田に現存する溶岩流のあと(小室浅間)



北口本宮富士浅間神社を見学

石切場を見学



博物館でのまとめ学習

疑問点ができたら展示へ

樹型の中に入って見学



教え合い、学びを深める



御師住宅で昼食



学習会を終えての感想発表

旧教訓の意識化「富士山ノ如ク 雄大尊厳ナレ 確固不動ナレ 純良潔白ナレ」

- ・学年目標の形式を統一する。
- ・各学年の目標をまとめて掲示するコーナーの設置。



6年 学年目標

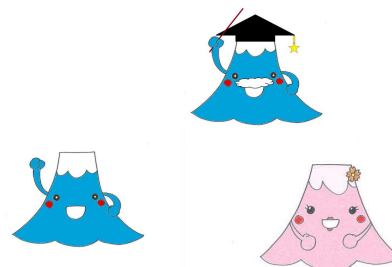
自ら考え 主体的に学び合う子
 相手の良さや気持ちを考え 協力する子
 心も体も健康で 根気強く努力する子

各学年目標（教室掲示）

- ・大きな富士山のまわりに各学年や支援学級目標を配置。頂上の学校教育目標と旧校訓に向かって登るイメージを持たせた。

富士山教育の成果の検証

- ・児童・職員を対象にしたアンケートで成果を図る。
- ・次年度への改善点を教育課程に反映させる。
- ・「郷土愛」「富士山教育への意欲関心」「知識」



4 成果と課題

富士吉田市で行われている富士山教育は、平成14年からはじまり、各校の教育実践に着実に根付いている。吉田小においても、富士山教育は学校教育活動の中で体系的かつ計画的に行われている。しかしながら、教育課程が変わり、学校職員が異動する中で、それぞれの富士山教育に関わる学習のつながり、特に小学校6年間を通した学習のつながりが不明確になってきていた。また、富士山や地域についての知識が定着していないところもあった。一方において、学校で行われている富士山教育が地域に知られていないことも課題であった。これらの課題を受け、本年度は、富士山教育の体系を再確認すること、身につけるべき知識を確認すること、地域に取り組みを発信することに取り組んできた。

「吉小 富士山教育の日」「富士山クイズウォークラリー」では、映像や講演で6年間を見通したり、クイズを通して興味関心を持たせることができた。特に3年生では、直前に世界遺産構成資産の外川家住宅（御師住宅）に見学していたこともあり、自分たちの経験と講演内容がつながり、意欲的な姿が見られた。「吉小 夏休み富士山学習会」では、15人の6年生が積極的に参加し、現在も御師をされている御師住宅へ行ったり、博物館を利用した学習を進めたりすることができた。学習の成果物は、富士山教育6年間の集大成として博物館に掲示していただくことで、地域へ発信することもできた。「富士山教育検定」は、年間の学習内容を見直し、その学年でつきたい知識などを体系化して学習内容を進めてきている。

一方で、富士山学習を充実させることで教育課程に負担のかかることのないようにすることが課題としてあげられる。また、地域に発信する方法も発表会に限らず、様々な方法を模索していく必要がある。

富士の麓に暮らす子どもたちが将来、県外へと出たときに、「富士山って…なんだよ！」「私の暮らしていた富士吉田ってすごくいいところだよ！」「遊びに来たときには案内してあげるよ！」と言えるように、吉小 富士山教育をこれからも進めて行きたい。